

◆ 効能効果と標準病名を関連づけて表形式に！

H₂受容体拮抗剤
日本薬局方

注射用ファモチジン
ガスター[®]注射用10mg
ガスター[®]注射用20mg
Gaster[®]

【禁 忌(次の患者には投与しないこと)】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効 能・効 果】

上部消化管出血(消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍、出血性胃炎による)、Zollinger-Ellison症候群、侵襲ストレス(手術後に集中管理を必要とする大手術、集中治療を必要とする脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・広範囲熱傷)による上部消化管出血の抑制、麻酔前投薬

【用 法・用 量】

○上部消化管出血(消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍、出血性胃炎による)、Zollinger-Ellison症候群、侵襲ストレス(手術後に集中管理を必要とする大手術、集中治療を必要とする脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・広範囲熱傷)による上部消化管出血の抑制
通常、成人にはファモチジンとして1回20mgを日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液20mLにて溶解し、1日2回(12時間毎)緩徐に静脈内投与する。又は輸液に混合して点滴静注する。
又は、ファモチジンとして1回20mgを日局注射用水1～1.5mLに溶解し、1日2回(12時間毎)筋肉内投与する。
なお、年齢・症状により適宜増減する。
上部消化管出血及びZollinger-Ellison症候群では、一般的に1週間以内に効果の発現をみるが、内服可能となった後は経口投与に切りかえる。
侵襲ストレス(手術後に集中管理を必要とする脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・広範囲熱傷)による上部消化管出血の抑制

添付文書の
記載

●添付文書の効能効果を「表」にして見やすく！

●効能効果に対応する標準病名(レセ電傷病名)を関連づけ。ICD10(国際疾病分類第10版)も掲載しました。

本書の
記載

ガスター注射用10mg 規格：10mg1管[220円/管]
ガスター注射用20mg 規格：20mg1管[387円/管]
ファモチジン アステラス 232

ガスポート注射用20mg 20mg1管[271円/管]：大洋薬品、ガモファール注射用20mg 20mg1管[271円/管]：大原薬品、ファスタニール注射用20mg 20mg1管[271円/管]：高田、注射用ファモスタジン20mg 20mg1管[271円/管]：東和薬品、ファモチジン注射用10「SW」 10mg1管[154円/管]：沢井、ファモチジン注射用20「SW」 20mg1管[271円/管]：沢井

効能効果	標準病名	ICD10コード
ZOLLINGER-ELLISON 症候群	ゾリンジャー・エリソン症候群 (ZOLLINGER-ELLISON 症候群)	E168
上部消化管出血(消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍、出血性胃炎による)	胃潰瘍(消化性潰瘍) 急性胃潰瘍(急性ストレス潰瘍) 出血性胃炎 上部消化管出血	K259 K253 K290 K922
侵襲ストレス(手術後に集中管理を必要とする大手術、集中治療を必要とする脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・広範囲熱傷)による上部消化管出血	上部消化管出血 多臓器不全 頭部外傷 頭部損傷(頭部外傷) 熱傷 脳血管障害	K922 R688 S099 S099 T300 I679
麻酔前投薬	該当病名なし(8)	

【用法用量】

(1)上部消化管出血(消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍による)、Zollinger-Ellison 症候群、侵襲ストレス(手術後に集中管理を必要とする大手術、集中治療を必要とする脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・広範囲熱傷)による上部消化管出血の抑制は、術後集中管理又は集中治療(侵襲ストレスは3日間程度、その程度)の投与とする。

(2)麻酔前投薬

通常、成人にはファモチジンとして1回20mgを日局注射用水1～1.5mLに溶解し、麻酔導入1時間前に筋肉内投与する。又は、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液20mLにて溶解し、麻酔導入1時間前に緩徐に静脈内投与する。

【用法用量に関連する使用上の注意】

腎機能低下患者への投与法

ファモチジンは主として腎臓から未変化体で排泄される。腎機能低下患者にファモチジンを投与すると、腎機能の低下とともに血中未変化体濃度が上昇し、尿中排泄が減少するので、次のような投与法を目安とする。

<1回20mg1日2回投与を基準とする場合>

クレアチニンクリアランス(mL/min)	投与法
Ccr ≥ 60	1回20mg 1日2回
60 > Ccr > 30	1回20mg 1日1回 1回10mg 1日2回
30 ≥ Ccr	1回10mg 2日に1回 1回5mg 1日1回
透析患者	1回10mg 透析後1回 1回5mg 1日1回

【禁忌】 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

◆薬価も収載(平成18年4月薬価改定に対応)

保険請求にも役立ててもらえるよう、薬価を収載しました。同成分・同規格商品もまとめて記載し、後発品の確認も出来ます。

◆用法用量の記載も充実

添付文書記載の用法用量の他、用法用量に関連する使用上の注意や、効能効果に関連する使用上の注意などを記載しました。

◆警告・禁忌など重要事項も掲載

添付文書記載の「警告」、「禁忌」、「原則禁忌」、「併用禁忌」、「原則併用禁忌」などの重要事項も掲載し、処方時の安全性を高める情報が充実しています。